2007年度エコマジック活動報告書

目次

はじめに	２
エコマジック設立経緯	３
年間活動	４
班紹介	５
班別年間スケジュール	６・７
ＤＲＰについて	８・９
生分解性トレーについて	１０
トレー販売枚数および収支	１１
ごみ１１分別	１２
ごみ処理の流れ	１３
ごみの排出量	１４・１５
学園祭における問題点とその改善のために	１６
アンケート集計結果	１７
編集後記	１８・１９

はじめに

エコマジック代表　谷口　雄一朗

現在、環境問題は複雑化しており、政府による環境対策もなかなかプラスの数字を出すのが困難な状況になっています。その中でも、ゴミ問題は温暖化問題の二の次として取り扱われていますが、とても深刻な問題です。3R(Reduce、Reuse、Recycle)対策により循環型社会を目指してはいるものの、偽装や情報の過度な流出などにより、上手くいっているわけではありません。処分場にしても場所は徐々に狭くなっており、早急な措置を講じなければなりません。

私たちエコマジックはこういったゴミ問題について活動を通じて考えていこうという事で結成された団体です。活動内容としては川のゴミ拾い、海岸の清掃、学園祭でのゴミ担当などを行っています。やはり活動をする事によって得られる事は多く、今後もこのような活動をしていきたいと考えております。

今回、文集と言う形で私たちの活動をまとめてみました。この１冊で全部を伝えきるという事は難しい事だと思うのですが、できる限りまとめてみました。分かりづらいところもあるとは思いますが、目を通していただけると幸いです。

エコマジック設立経緯

Dish Return Project

2000 年 9 月
学園祭のごみ状況を知り、自分たちに何かできないかと思案。
その結果、DRP チームが発足。
2000 年 11 月
環境祭にてごみ排出削減のため DRP システムを初導入。
5 店舗で実施し、お皿の使用数 760 枚。
お皿の回収率 95%。
2001 年 11 月
昨年の反省を踏まえ、システムを改善し、再び環境祭にて DRP を行う。
4 店舗で実施し、お皿の使用枚数 860 枚。
お皿の回収率 99%。

エコまるクラブ

2000 年 11 月
学園祭にてごみ 14 分別展示。ごみの分別活動に力を注ぐ。
2001 年 11 月
長大祭においてごみ分別を行う。
加えて、リサイクルトレーの導入や割り箸などのリサイクルに取り組む。

エコマジック

2002 年 2 月
お互いの活動をより向上させるため
そしてより多くの人に浸透させるため
Dish Return Project とエコまるクラブが共同企画として
エコマジックを立ち上げる。
DRP・生分解性トレーの普及、ごみの分別、
生ごみの堆肥化、My 箸キャンペーンといったプロジェクトとともに
学園祭だけで終わらせる団体ではなく、
その他さまざまな環境活動へとつなげることを念頭に置き
活動開始。

エコマジックの年間活動

エコマジックは“ゴミを減らす”という理念のもと、2002 年に設立された団体です。学園祭で出るゴミを分別し、適切な処理を行うことでゴミの減量に努めているほかに、川や海での清掃活動を通してゴミの現状に触れるだけでなく、地域の人々と共同で行う活動を通じて環境の大切さについて広めていきたいと考えています。また、エコマジックは環境科学部に所属するメンバーにとっては特に講義で学んだことを応用し具体的に行動する場として生かされおり、他学部のメンバーにとっても普段あまり考えることのない環境問題について自発的に考える場となっています。

エコマジックでは、週一回の集会のほか、以下のような活動を行っています。

月	活動名	活動概要
2 月	浦上川清掃	浦上川周辺の地域の団体と共同で浦上川の清掃作業を行う。
4 月	浦上川清掃	同上
5 月	浦上川清掃	同上
6 月	浜辺清掃（手熊ｇｉｃ） 浦上川清掃	長崎市手熊町の手熊海岸の清掃作業。 同上
8 月	浦上川清掃	同上
10 月	浦上川清掃	同上
11 月	学園祭	学園祭において、学園祭運営委員会より委託されているゴミの処理を主に行う。具体的には、（１）食品販売用トレー[1]の統括　（２）食器回収洗浄再利用[2]（３）ゴミ捨て場[3]でのゴミの分別指導（４）生ゴミの堆肥化（５）廃棄物回収業者へのゴミの引渡し
12 月	浦上川清掃	同上

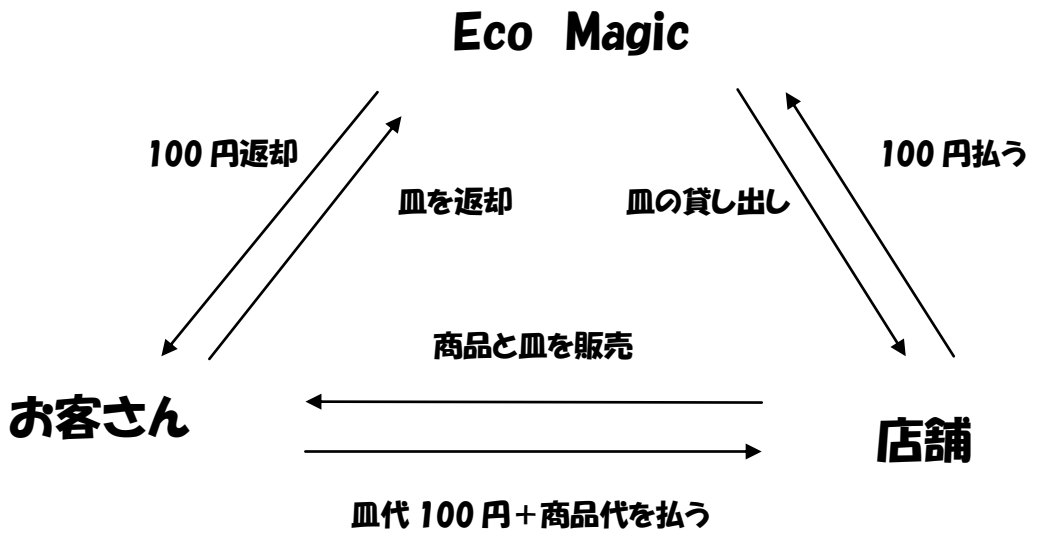
注：１）生分解性トレー
２）DRP（Dish Return Project）ともいう。
３）エコステーション

班紹介

エコマジックでは、学園祭において、より円滑に活動を行うためにメンバーをそれぞれ以下の４つの班に分けています。

●DRP(Dish Return Project)班

DRP では、学園祭の各店舗に有料でプラスチック製のお皿を貸し出し、店舗はお客さんに対してお皿代 100 円を上乗せして商品を販売します。この時、洗って再利用できるプラスチック製のお皿を使うことでゴミとなる使い捨てトレーの利用を減らすことができます。お客さんは、商品を食べ終わった後に、エコマジックの本部にお皿を返しに来てもらうと、お皿代が戻ってくるというデポジット制度をとっています。



●トレー班

学園祭の期間中、DRP だけではお皿の数などに限界があるので、それを補うために各店舗にトレーの販売をしています。しかし、このトレーは使用した後に土に埋めることによって、堆肥になる環境にやさしいトレーです。このトレーを使用することによって、一般のトレーよりも、環境に負荷は与えません。

●ゴミ班

ゴミ班は、学園祭において校内 7 箇所に「エコステーション」(ゴミ箱)を設置し、ごみを 11 分別しています。さらに、学園祭に来られる一般のお客さんや店舗に対してゴミの分別指導を行っています。

～分別の内容～

①可燃ごみ ②串類、割り箸 ③プラスチック製容器包装 ④不燃ごみ ⑤生ごみ ⑥アルミ缶
⑦スチール缶 ⑧ペットボトル ⑨ビン ⑩生分解性トレー ⑪ダンボール

●堆肥班

堆肥班は、学園祭で出た生ごみと性分解性トレーを土にかえし、「堆肥化」して花壇などに利用しようという活動をしています。土に埋めた後は、定期的に掘りかえして土の中の生ごみや生分解性トレーを、より効率的に分解させています。

エコマジ年間スケジュール☆

		ゴミ班	ＤＲＰ班
10月	10	・ゴミ回収業者に電話	・ＤＲＰ皿数え・水道許可申請書作成
	12		・鴻洋祭の店舗抽選会にてＤＲＰ申込用紙配布、説明
	13	・11 分別表作成	
	15	・市役所リサイクル推進室にボランティアゴミ袋 1000 枚予約 ・図書館総務係に「図書館横の敷地の使用のお願い」を提出 ・エコステボード作り（プラ板購入・裁断）	
	16	・学食 2 階にてボード作り	
	17	・ボード作り　・図書館に受理の是非を聞くが、担当者不在 ・水産学部空き地（予備の集積場）の使用許可は工事中のため不受理 ・学生支援センターに「学園祭期間中の可燃・プラスチック製容器包装・不燃等のゴミ回収許可のお願い」を提出	・環境祭の店舗抽選会にてＤＲＰ申込用紙配布、説明
	18	・学生支援センターに結果を聞きに行くが書類不備で再度提出に	
	22	・ボード作り　・図書館から敷地使用許可の連絡が入る	・トレー＆ＤＲＰ展示会
	23	・市役所に行きゴミ袋の本申請を行う	・トレー＆ＤＲＰ展示会
	30	・食品衛生管理説明会用の資料作成	
	31	・シフト作成の為のスケジュール申し出開始(~11/4)	
11月	1	・食品衛生管理説明会に向けて班リーダーとの話し合い ・配布資料の印刷	
	2	・食品衛生管理説明会で資料配布（11 分別表・エコステマップ・店舗チェックの方法・ごみ分別の注意書)、説明	・食品衛生管理説明会にてＤＲＰ使用の説明
	3	・各学部に「学園祭期間中の屋外のゴミ箱封鎖のお願い」を提出 ・市役所からゴミ袋が届く	
	14		・ＤＲＰの皿洗い
	4 ｜ 19	・はし、プルタブ入れ作り　・シフト作成、ＨＰ掲載、印刷 ・守衛室に「ゴミ回収業者の入構許可願い」を提出 ・ゴミ業者への最終確認の連絡・各エコステに置くマニュアル作り	
	20	・エコマジメンバーに 11 分別表とシフトを配る、シフト訂正	
	21	・ボード穴あけ、ひも通し　・エコステ組み立て ・「ゴミ箱封鎖のための使用禁止」張り紙作り	・DRP 運び
	学園祭	①　ゴミ箱封鎖②集積場作り（紐を張り置き場を作る） ③エコステ用備品チェック④各店舗にアンケートとゴミ袋を配る ⑤違反トレー摘発⑥集積場のゴミ拾い⑦集積場配置換え ⑧ガス抜き機の盗難を鴻洋祭に訴える ⑨代替トレー用のゴミ袋をエコステにつける ⑩エコステ解体⑪ゴミ箱開放	①皿を店舗に販売 ②返却された皿洗い ③消毒済みの皿を包装
	25	・ゴミ回収（小江原産業、樫本勝商店）	
	26	・ゴミ回収（マツダクリーンサービス）	

		トレー班	堆肥班
6月		・エコ学祭のメールを確認し、申し込むか決める	・切り返し
	26	・エコ学祭共同購入エントリーシート提出	
7月	中旬	・使用するトレーの種類、数の仮決定	
8月	1	・トレー共同購入仮注文表提出	
9月	中旬	・昨年度の余りトレー数確認、使用不使用の決定 ・使用するトレーの種類、数本決定 ・トレー本注文表提出	
10月	上旬	・サークル説明会の説明書準備＆注文書コピー ・学園祭でのトレー販売単価決定	
	12	・鴻洋祭店舗抽選会、説明会	
	17	・環境祭店舗抽選会、説明会　・トレー展示会	
	22	・トレーが届く　・トレーサンプルの準備 ・141 教室と倉庫の借用許可を取る、トレー運び込み ・トレー＆DRP 展示会	
	23	・トレー＆DRP 展示会　・備品準備	
	24	・トレー数確認	
	25	・トレー数確認・店舗の注文データをまとめる ・環境祭、鴻洋祭トレー注文表提出締切日	
	27		・堆肥場の整備　・買出し
	29	・ビニールなどの備品準備、印鑑押し	
	30	・トレー仕分け	
11月	2	・食品衛生管理説明会　・トレー事前販売	
	7｜9	・トレー追加注文	
	中旬	・トレー追加注文分が届く、数確認	
	21	・洗い場準備　・当日用トレー運び	・生ごみ、トレーを埋めるための穴掘り作業
	学園祭	①トレー当日販売 ②代替トレー購入、販売	生ゴミ、トレーを埋める
	25	・片付け	
	26｜29	・トレー在庫片付け	

DRP（Dish Return Project）について

・目的

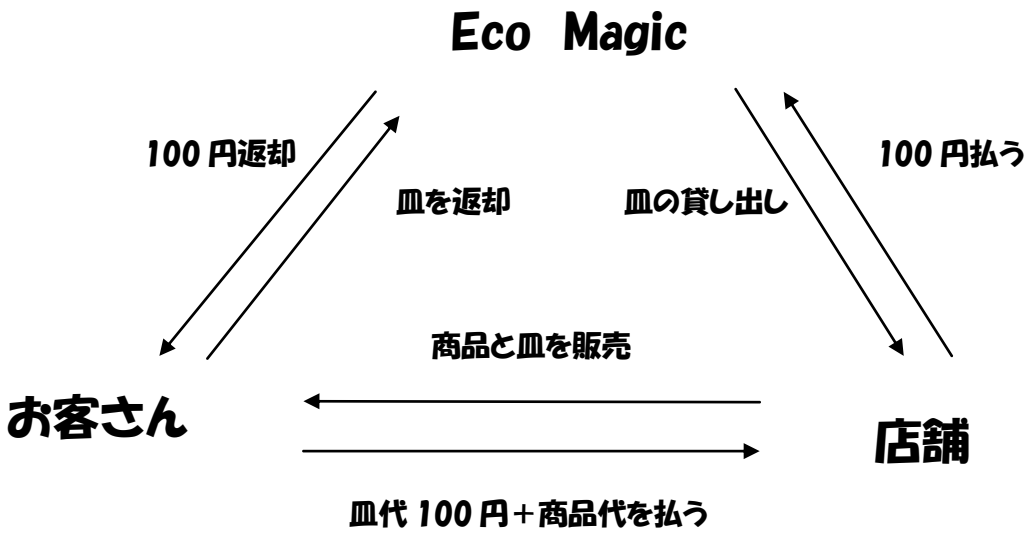
DRP とは使い捨てのトレーを使わずに、洗って何度も使用できるお皿を使ってもらおうという企画です。デポジット制にすることで、皿の使い回しを可能にします。環境負荷がトレーを使うよりも低く、お皿の購入費用は必要ない、エコをアピールすることでお店の宣伝となり、お店は使用後のトレーを処理する手間が省けるという、まさに一石四鳥のシステムです。

私たちが DRP を行う理由は、リサイクルをできるだけ抑えようという気持ちがあります。リサイクルするということはその過程にエネルギーをかけることにつながります。つまり、リサイクルするようなゴミを出してしまうのであれば、初めからそのようなゴミは出さないようにしようという思いで DRP の普及に努めています。

・学園祭ではどのように使用するのか

何度も使えるお皿を使用するためにデポジット制を取り入れています。当日各店舗はエコマジックから 1 枚 100 円でお皿を借り、商品を売る際にお皿代として 100 円を上乗せして販売します。そしてお客さんがそのお皿をエコマジックに返却する際に 100 円返金します。経済的にも環境にも負担がかからないシステムです。

下の図はお皿とお金、商品の流れを簡単にまとめたものです。



メリット

・学園祭で約 20%を占めているトレーのゴミを減らすことができます。また、トレーを使用するよりも環境負荷が低いです。

・店舗は容器代がかかりません。つまり DRP を使用することで、トレーを使用する場合に容器代として掛かっていたお金を利益に回すことができます。

・店舗はトレーを使用する場合に起こる処理などの仕事も、DRP ではエコマジックがするので手間が省けます。

・ゴミの減量でゴミ処理費用が掛かりません。

・丈夫で長時間使用できます。

デメリット

・学園祭すべての店舗が DRP を実施しているわけではないので、他の店舗の商品と比べ商品の価格が 100 円高く見えてしまいます。

・持ち帰ることはできません。

・衛生面での注意が必要です。

・お店が望むお皿とエコマジックが用意するお皿が一致しない可能性があります。

・洗浄が大変、さらに汚水の問題があります。

生分解性トレーについて

生分解性トレーとは…

私たちエコマジックは例年「エコアイ」という業者から生分解性トレーを購入しています。原材料はアシ・竹・バガス（サトウキビの絞りかす）です。アシは多年生草本類で供給力が高く、環境に負荷を与えません。竹は繊維のコシが強く殺菌性もあります。バガスは農業廃棄物の再利用で森林の保護につながります。この生分解性トレーは水・油に強いのも特徴です。また、分解性に優れており、使用後は生ゴミと一緒に長崎大学構内で土に埋めて堆肥にします。焼却処理などと比べて土壌還元・堆肥化は焼却に要する電力がかからず、二酸化炭素の発生も抑えることができます。環境ホルモンや焼却時のダイオキシン発生の心配もありません。

メリット	デメリット
軽くて持ち運びが便利。	ゴミが出る。
使用後はすぐに捨てられる。	リサイクルのため多くのエネルギーが必要。
どんな商品にも対応できる。	

使用目的

本来ならば学園祭で使用するお皿は統一すべきなのですが、それが不可能な理由は 2 つあります。一つ目は DRP の普及率の低さです。普及率が低いため、すべての店舗において DRP のお皿を使用するよう薦めることが難しかったのです。そしてもう一つの理由は、我々の所有している DRP のお皿の数が少なく、すべての店舗をカバーするまでには至っていないからです。そのため、エコマジックでは DRP のお皿以外でトレーの使用を考え、さらに、トレーを使用するのであれば、環境負荷の低いトレーを使おうということで、生分解性トレーを導入しています。

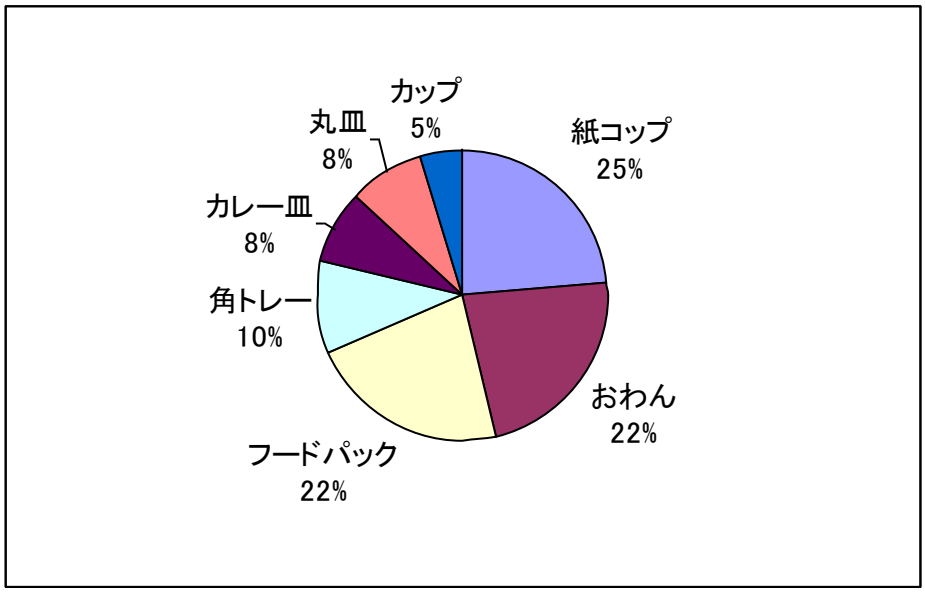
トレー販売枚数および収支

エコマジックは毎年学園祭において業者から購入したトレーを各店舗に販売しています。
今年度の販売実績は以下のとおりです。

	フードパック	おわん	カップ	角トレー	丸皿	カレー皿	紙コップ
サイズ(mm)	225×171 ×52	φ 155×62	φ 114×84	200×152 ×16	φ 180　×18	233×143 ×45	φ 80×91
単価(円)	14.2	14.2	12.4	11.4	11.8	13.2	9.8
販売枚数(事前販売)	4650	4150	1600	2700	1800	2000	5000
〃　(当日販売)	2110	3170	0	1030	950	500	2790
合計枚数(①)	6760	7320	1600	3730	2750	2500	7790
返品枚数(②)	400	900	250	800	400	100	990
売り上げ枚数(①ー②)	6360	6420	1350	2930	2350	2400	6800
販売合計金額(Ⅰ)	95992	103944	19840	42522	32450	33000	76342
返金(Ⅱ)	5680	12780	3100	9120	4720	1320	9702
利益(ⅠーⅡ)	90312	91164	16740	33402	27730	31680	66640

利益合計:357,668 円　この利益のうち 262,605 円は業者からのトレー購入の際の支払いにあてられ、余剰分の 95,063 円は学園祭実行委員会に返金いたしました。

販売したトレーの種類別の割合をグラフで表すと以下のようになります。



ごみ１１分別

・目的

リサイクル促進のため、学園内にゴミ分別ステーション（エコステーション）を設置し、学園祭で出るゴミを分別回収しています。分別内容は、可燃ごみ、串・割り箸、プラスチック製容器包装、不燃ごみ、生ゴミ、アルミ缶、スチール缶、ペットボトル、ビン、生分解性トレー、ダンボールの 11 分別です。さらに今年は他のサークルの要請で可能な限りプルタブ・ペットボトルのふたを集めるよう努めました。

・エコステーションについて

エコステーションとは、長崎大学文教キャンパス内の 7 箇所に設置されたゴミ箱のことです。エコステーションには 2 名以上の分別指導員をおき、分別の分からない人に分別の指導を行いました。また、エコステーションには各学部祭と学園祭運営本部より代表者を 2 名以上召集し、学園祭期間中に計 2 時間以上エコステーションに入ってもらうことで、分別の知識を広めるよう努めています。また、現状ではエコマジックは人員不足の状態といえますが、学部祭からの代表者と当日スタッフにエコステーションに入ってもらうことで、人員不足の解消をはかっています。

・ゴミ処理について

エコマジックでは学園祭で集められたゴミを 3 つの業者に委託し処理しています。
ゴミ処理の流れについては次項をご覧ください。今年度のゴミ処理にかかった費用は以下のとおりです。

<u>①マツダクリーンサービス</u>（可燃ごみ・不燃ごみ・プラスチック製容器包装・びん）
・・・31500 円

<u>②小江原産業</u>（アルミ缶・スチール缶・ペットボトル）
・・・8000 円
アルミ缶は買い取っていただいたので、代金としてこのほかに 1840 円の返金がありました。

<u>③樫本勝商店</u>（ダンボール）
・・・5000 円

ごみ処理の流れに関する報告

今年度の学園祭で集められたごみの処理の流れは以下のとおりです。

可燃ごみ⇒長崎市西工場で焼却処分→焼却灰→三京クリーンランドで埋め立て処分

不燃ごみ・プラスチック製容器包装(※)⇒三京クリーンランドへ→鉄分は業者が回収→埋め立て処分

びん⇒色(無色・茶色・その他)ごとに分けられ、福岡・熊本のリサイクル工場へ→ガラスびんやタイル・土木資材などにリサイクル

アルミ缶・スチール缶⇒問屋による回収→リサイクル会社が引き取り、缶等にリサイクル

ペットボトル⇒問屋による回収→リサイクル会社が引き取り、プラ製品などにリサイクル

段ボール⇒問屋による回収→製紙会社が引き取り、再び紙としてリサイクル

付記
上に記載されていない生ごみ・生分解性トレーについては、我々エコマジックが回収し、大学構内の堆肥場で堆肥にしています。

※ 可燃ごみや不燃ごみが、家庭系一般廃棄物として扱われるのに対し、大学から出たプラスチック製容器包装(以下プラごみ)は、事業系一般廃棄物として扱われます。この場合、回収するマツダクリーンサービスとしては、プラごみも不燃ごみとして扱わざるを得ません。その理由は、マツダクリーンサービスは長崎市から委託を受けているわけではないので、市のごみ処理施設における、プラごみ集積のピットに入ることはできないからです。この件に関する詳しい事情は、市の HP 又は廃棄物対策課までお問い合わせください。

長崎市のごみ http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp/gomi/
長崎市廃棄物対策課 TEL 095-829-1159（直通）　E-mail haikibutu@city.nagasaki.lg.jp

ごみの排出量に関する調査報告

我々エコマジックは、学園祭の際に出るごみの量を削減することを活動の目的としています。毎年の排出量を比較するため、今年度よりごみの計測調査を開始しました。

三日間に出た各ごみの量を表にしました。(表 1)

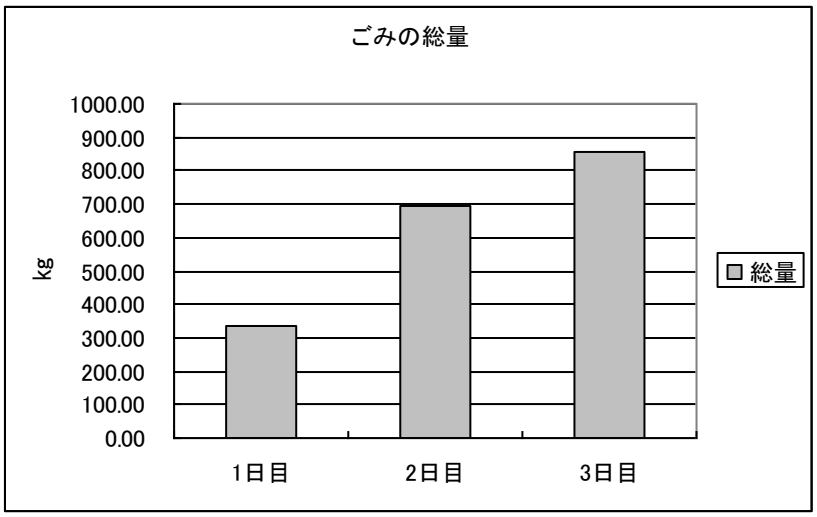
表 1

日 種類(kg)	1 日目	2 日目	3 日目	三日間合計
可燃ごみ	97.1	188.4	236.5	522.0
不燃ごみ	34.4	74.7	138.1	247.2
プラ包装	23.0	45.3	86.6	154.9
アルミ缶	9.0	19.0	21.5	49.5
スチール缶	8.1	17.3	19.4	44.8
ペットボトル	9.0	18.1	36.1	63.1
びん	3.5	11.8	17.7	33.0
トレー(生分解性)	73.0	144.0	119.8	336.8
生ごみ	76.3	177.7	177.5	431.5
代替トレー(※)	0	0	5.6	5.6
総量	333.3	696.2	858.8	1888.3

※代替トレー：エコマジックが用意していたトレーが不足したため、急遽生分解性トレーの代わりに販売したトレー。市販のものでプラスチック製。土に還らないため、生分解性トレーとは区別して計量しました。

表 1 を見ると、学園祭の日を追うごとにほとんど全てのごみの量が増えていることや、その中でも可燃ごみや生ごみの量が膨大であることがわかります。このことについてさらに、グラフを用いて考えてみます。

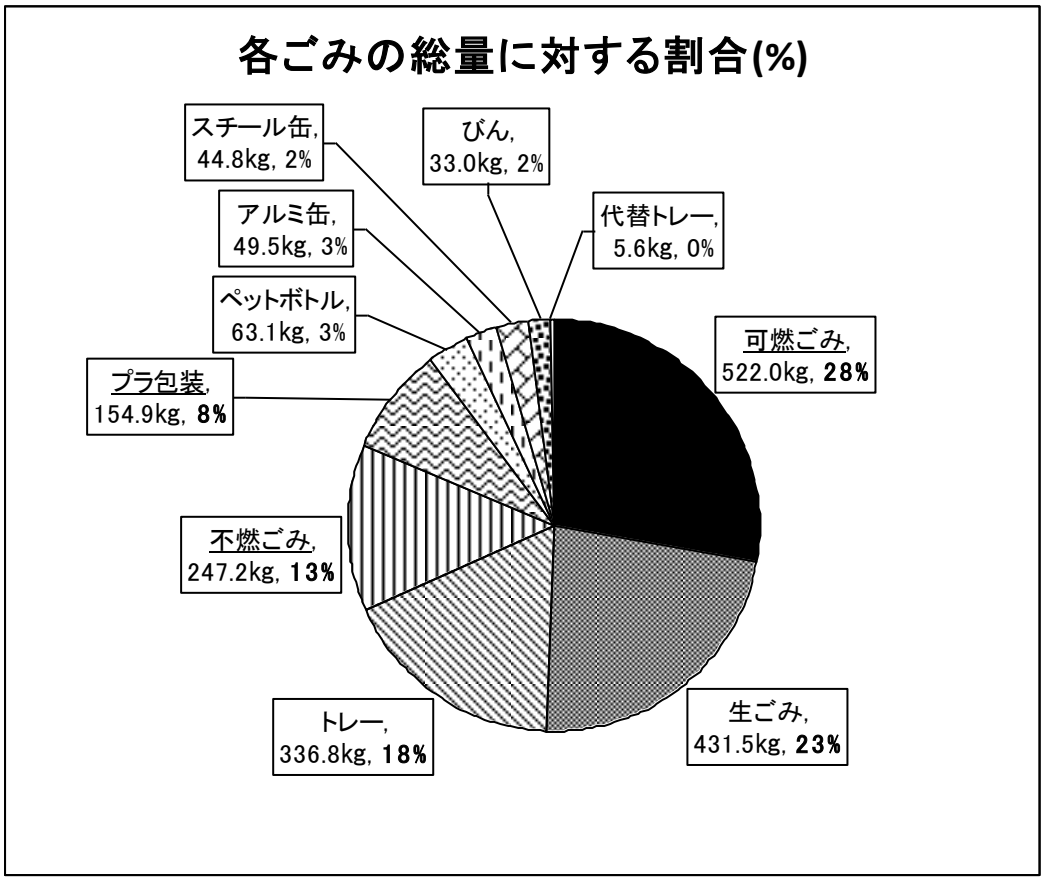
グラフ 1



グラフ１を見ると、やはり日ごとにごみの量が増えていることがわかります。１日目から２日目にかけては２倍以上も増えています。

下のグラフ２では、各ごみの量が、総量に対してどういう割合であるかを円グラフで表しました。

グラフ　２



※　代替トレーの割合は有効数字の関係上 0%となっていますが、実際は 0.3%です。

ごみ全体の約 4 割を占める生ごみとトレーは現在、我々EcoMagic が堆肥に変えて地中に還元しているので、実質的なごみの量としては、ほぼ 0 です。したがって、ごみの効率的削減にはまず、全体の約３割を占める可燃ごみの削減に取り組むのが第一であり、次に不燃、プラスチック包装の順で削減を図っていくのが適切です。「堆肥化」による削減に加えさらに、可燃・不燃・プラの３つのごみの削減に成功すれば、ごみの量を大幅に減らすことが可能になります。

今回の調査結果から得られる教訓はまだまだ多くあるものと考えられます。今後、より詳細な分析をもとに、来年度以降のさらなるゴミの削減を目指して、具体的数値目標の設定や新しい削減策の提案などを行なっていきたいと思います。

学園祭における活動の問題点とその改善のために

私たちエコマジックは、今年度の学園祭における活動の問題点及びその対策を検討し、下記のように列挙しました。挙げられた問題点を改善することで、来年度の活動につなげていく努力をしています。

【トレー】
・違反トレーを使う店舗があった
　→対策：①店舗への事前説明の徹底、②エコマジックが販売するトレーの種類の充実
・トレーの枚数が不足した
　→対策：十分なトレーの確保（より広い保管場所が必要）
・各店舗への説明不足
　→対策：エコマジック単独の説明会を開く・通知の徹底

【DRP】
・皿の枚数・種類不足
　→対策：皿の購入（←購入資金の不足）、保管場所の不足

【ゴミ】
・ごみの分別の不徹底
　→対策：①分別表の充実、②店舗への説明の徹底
・ゴミの計測の効率が悪い
　→対策：①計測器を買い足す、②集積場に置くためのライトの購入

【堆肥】
・スコップ、くわ等の道具不足
　→対策：①買い足す、②保管場所の確保
・堆肥場が狭い
　→対策：堆肥場の拡張

今回挙げた問題点の中で今最も問題となっているのは、エコマジックの活動拠点となり備品の保管場所ともなるべき部室が無いことです。また、道具等の購入に要する資金が不足しているのも現状です。この二点が今後の活動において、早急な対応が求められる問題です。

アンケート集計結果

エコマジックでは今年、学園祭においてごみに関するアンケートを実施し、18 店舗からの回答がありました。結果を分析したところ、以下のようになりました。

質問①ごみ分別はできましたか。

よくできた・・・・・・４店舗（２２％）
できた・・・・・・・・９店舗（５０％）
できなかった・・・・・１店舗（６％）
全然できなかった・・・０店舗
どちらでもない・・・・４店舗（２２％）

質問②１１分別に賛成ですか。また、その理由は。

賛成・・・・・・・・・・１４店舗（７８％）
反対・・・・・・・・・・１店舗（６％）
どちらでもない・・・・３店舗（１７％）

理由　　() 内の数字は回答数。

<u>賛成と答えた店舗</u>　・環境によい（6）・環境保全について考えることができた（3）
・環境保全の意識が高まる（1）

<u>反対と答えた店舗</u>　・あまりに細かすぎる（1）

質問③分別したごみがどうなるか知りたいですか。

知りたい・・・・・・・７店舗（３９％）
知りたくない・・・・・１店舗（６％）
どうでもよい・・・・・１０店舗（５６％）

質問④これからも分別を行いたいですか。また、その理由は。

指定されたら行う・・・１３店舗（７２％）
自分から行いたい・・・４店舗（２２％）
行いたくない・・・・・１店舗（６％）

理由　　() 内の数字は回答数。

<u>指定されたら行うと答えた店舗</u>　・決められたことだから（3）
・分別は指定されたほうがうまくできる（1）

<u>自分から行いたいと答えた店舗</u>　・指定されると面倒だから（1）
・指定されなくても４分別を行う（1）

<u>行いたくないと答えた店舗</u>　・面倒である（1）

アンケートを実施してみて・・・

アンケート結果は上記のとおりですが、店舗の回答率が悪く、この集計結果から正しい傾向が分かるとはいえません。ただ、この結果から言えることは、ごみの分別に多くの店舗が賛成しており、今後もこの活動を続けていく意識はあるということです。しかし、ごみの分別を行いたくないという店舗もわずかにあることから、今後エコマジックの活動の大切さについてアピールし、分別への意識を高めていくことが求められます。

編集後記

学園祭が終了して約 2 ヶ月経った今やっと、この報告書を完成することができました。エコマジが結成されて 5 年目を迎えた 2007 年、久々の紙面としての報告書の出来は完成度の高いものだとは考えていません。これは編集担当のメインである私たち 2 年生が、今年度を「エコマジックの革新」として歩んできた結果の一部として残れば意味のあるものだと考えるからです。

そもそも、今年度を「エコマジックの革新」と位置づけたのにはわけがあります。エコマジックは 2 年生の代で部長を引き継ぎ､実質活動は 2 年間という他のサークルとは異なる運営方法をしていました。そんな中で昨年度はエコマジックがどのような活動をするのかを先輩に聞き、学園祭のゴミ減量をするという活動に興味を持ち、先輩たちのすることを少しずつ覚えて活動するのが精一杯でした。そして私たちがその引っ張っていく立場である 2 年生になったとき、新入生部員を勧誘する際にゴミの減量や管理といったものはどうしても興味のない人には敬遠されがちであることに気づき、エコマジックの意義についてあらためて考えさせられることになったのです。

エコマジックは学園祭のゴミの量を削減するために結成された団体であることは聞いていましたが、今の私たちはゴミを減らすということよりも、ただ長年積み重ねられたゴミ分別の方法を、先輩の敷いてくれたレールに沿ってのみの活動をしているのではないかと思いました。やはり、団体というものは結成時こそ様々な問題や新しいことに取り組むことで充実するものの、同じことを繰り返していくことが軌道にのると意義や目標を見失ってしまうのかもしれません。そのような問題にあらためて気づき、私たちの代から何ができるのかを考えた時にまずは昨年度に起きた学園祭での反省点の改善をすることがあがりました。反省点から生み出した改善策やシステム変化というのも革新の 1 つであると私たちは考えました。私たちにとっての革新とは、ゴミを減量することに対しての基礎固めなのかもしれません。

さて、そんな風にあらゆる準備をして向かえた学園祭はというと、私たちの準備が反映されたものもあれば、想像もできないような問題が生じてしまうこともありました。準備というものは完全ではないということをあらためて実感しました。学園祭のような大きなイベントでのゴミの減量をするには、まず分別をしっかり行わなければなりません。しかし、その分別をするのは私たちだけでなく、お客さんであり、店舗であるのです。それは協力無しでは不可能なことであるうえ、ゴミを減量させるということに分別する側が意識をもって取り組まないことには学園祭のゴミの減量は実現しません。また、今年度のゴミのデータを取ることはできましたが、私たちはただ、ゴミを減量するだけでよいのかということについても考えなければならないし、具体的に今年度に比べて来年度はどのくらいの割合でゴミを減量させるのかという数値目標を示し、その方法を考えることも必要です。そして、ゴミを減量するということで、私たちの周りの環境にどのように影響してくるのか、実際に意味のあることなのかを追求していくことも必要だと考えるのです。そしてその活動から、周りにいるゴミ問題への関心の薄い人たちにどう影響を与え、環境意識を高くさせるのかということも見据えなければならないのではないでしょうか。

私たちは団体としても、各機関や設備等への要望も存在します。その要望も実現のために、私たちにできることから始めていく予定です。その私たちの気持ちの一歩、革新への一歩としてこの報告書が形を残してくれます。

最初に述べたように、今年度から新たに作成したものなので、完成度は高いものではありません。

しかし、これかもエコマジックはゴミの減量化のために活動していくため、来年度作られた報告書が今年度のものより充実していればそれでよいし、充実していれば、ゴミの減量化に一般の人が積極的になったという答えにたどりつけばよいと思います。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

平成 20 年 2 月

編集担当一同